

## 音楽科現状の分析と授業改善プラン

### 音楽科における平成 29 年度改善プランの検証

- ・ 音楽的理論や楽典的知識の理解度は高く、さらに学ぼうとする姿勢がある。
- ・ 2, 3 年生は各自の声域を理解し、響きのある声で歌うことができる。
- ・ 積極的に挙手・発言しようとする生徒が多い。少人数での話し合いにも前向きに取り組む。
- ・ 音楽活動全般において大変意欲的に取り組むことが出来る。

### 音楽科における内容別結果の分析

- ・ 楽曲に対するイメージを言葉で表現する力を、多くの生徒が持っている。
- ・ 読譜力は個人差が大きく、知識を演奏に活かす力もかなり差がある。
- ・ 合唱には前向きに取り組むが、一人で人前で演奏することを躊躇する傾向が強い。
- ・ 普段邦楽に触れる機会が少なく、授業でも限られた時間の中で行う和楽器の指導が難しい。

### 音楽科観点別結果の分析

#### 【関心・意欲・態度】

- 授業の決まりを守り意欲的に取り組む生徒が多く、落ち着いた授業ができる。
- 協力して練習したり話し合ったり、他者の演奏から学ぼうとする姿勢がある。

#### 【表現の創意工夫】

- 楽曲への明確なイメージをもたせ、音楽的表現にどうつなげていくかが課題である。
- 楽典的知識の正答率は高いが、実際の演奏表現に生かす工夫が必要である。

#### 【表現の技能】

- 変声期における男子の心情を理解し声域に合った歌い方を工夫することが課題である。
- 豊かな響きを作るために自ら持っている音色に気づかせ、伸ばしていく発声法に留意する。
- 和楽器の基礎的知識の理解や曲にあった奏法を身につけさせることが課題である。

#### 【鑑賞の能力】

- 楽曲が生まれた時代背景や作曲者について意欲的に学ぶ姿勢がある。
- 楽曲の構成や使われている楽器について理解し、イメージをもって聴くことができる。
- 時代ごとの音楽の特徴を捉えて鑑賞する力は個々により差がある。

### 音楽科の授業改善のポイント

- ・ 毎授業時に授業内容のポイントと自己評価を記入し、各自で確認とふり返りができるようにする。
- ・ 音楽的理論や楽典的知識を楽曲の演奏に応用できるようにするため、演奏指導の中でさまざまな角度からアプローチしていく。
- ・ 本番までの練習方法について自ら考え、目標を立てて取り組む力を養う。
- ・ リズム読みを充実させることで読譜力をつける。また、リズム創作活動につなげる。
- ・ 一人でも自信を持って歌唱表現できる力をつけさせる。
- ・ 変声期に入った生徒に配慮し、自信をもって声を出せるように指導する。
- ・ 和楽器の課題を達成できるための曲や各々の課題に応じた曲を用意する。また、邦楽の鑑賞教材の選定・楽曲へのアプローチに工夫をし、関心をもたせる。
- ・ 楽曲に対するイメージを持たせることと、そのイメージをクラス全体でコミュニケーションをとりながら共有し、表現する具体的な技術、方法を学ぶ活動を増やす。